たけうまファンド

2022年9月30日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-6.6%	9.2%	1.5%	-2.0%	-0.7%	1389.5%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		89.9%
	国内株式	71.7%
	海外株式	18.1%
現金（円・ドル）		10.1%

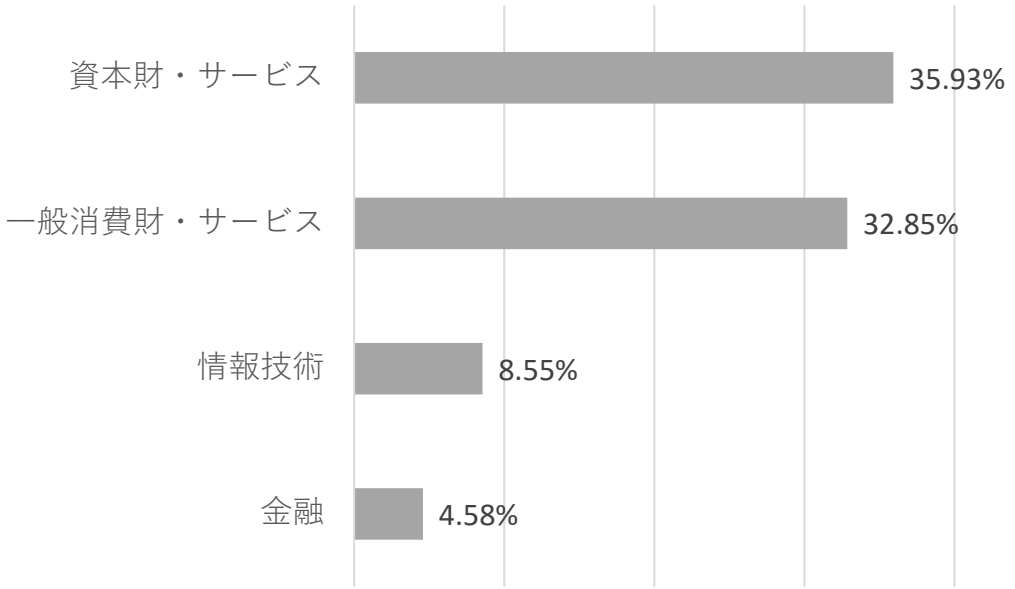
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合
※信用口座での保有株式については含み損益のみ計上

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年9月30日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD （4235）	18.81% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	ドラフト （5070）	9.27% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
3	シンメンテHD （6086）	8.58% 資本財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
4	ServiceNow, Inc. （NOW）	8.55% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
5	シルバーライフ （9262）	8.49% 一般消費財	高齢者向け宅配弁当大手。中計遂行に必要な設備投資を終えて攻めのターン。日本株での成長株枠。
6	日揮 （1963）	7.76% 資本財	総合エンジニアリング。世界経済ブロック化に向かう中でエネ安全保障での重複投資の一翼を担う。
7	オカダアイヨン （6294）	6.83% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
8	Tapestry, Inc. （TPR）	4.98% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
9	MSCI Inc. （MSCI）	4.58% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
10	ベネフィット・ワン （2412）	3.49% 資本財	福利厚生アウトソーシング。既存客法人への経費精算などHR分野でのクロスセルを狙う。

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年9月30日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

9月期は前月の好調から一転、非常に厳しい結果となりました。この結果を素直に受け止め、振り返りをしていきたいと思います。

まず、短期トレードが失敗続きでした。ガスETFを損切りしたのを皮切りにガチャガチャとやっていたものの取っては取られての繰り返しで全く利益に貢献せず。これではなんのためにやっているかわかりません。寝てたほうがマシです。極めつけはFXのほうで為替介入の直撃を食らってしまい、さらにその後の右往左往で減らしてこちらも全くいいところがありませんでした。意気消沈。

メンタル的に一番辛い分野を最初に書いたところで、次は一番パフォーマンスに影響した部分です。ひとえに1Q決算で一旦しゃがんだあと一直線にあがってきたウルトラファブリックスHDの調整によるところが大きいですね。その他も全般的に下がっているといえば下がっていますが主たる要因はここが一番大きいです。健全な継続的な上昇にはガス抜きも当然必要なのでここは問題視していません。

主力銘柄での取引としてはもうほどほど下がってきたでしょうというところでドラフトの買い増し、四季報発売後にオカダアイヨンの買い増しを行っています。米国株はダウとS&P500が年初来安値を更新した23日に3銘柄とも買い増しを行いました。完全に底というわけではなかったですが、いずれもまあまあなタイミングで買えていると思っています。また新規にシルバーライフを組み入れました。決算発表翌日の高値で買ってしまいどうしようかと思いましたが、涙のナンピン連打からの買いすぎた分を減らして現在はいいバランスに落ちてついています。まず課題があってそれを解決する企業を組み入れることが多い当ファンドでは珍しく純粋な成長株です。バリュエーションは若干高めですが、確保した生産余力をフルに活かした成長を期待しています。

今後のマーケットへの対応としては、もう余力が10％程度しかないので複数回に分けて買い下がっていくにはもっと大きくバッファを確保しておく必要があったなという反省をしつつ買い場を探っていきたいところですが、なにもこんな不安定な相場で真・フルポジにする必要はないのかなとも思っています。買うとすれば日本株で、脱コロナ禍からのリオープンで正常化、海外の影響を受けにくい内需、リオープンかつ安くなった国内での人手不足、国内製造業回帰あたりで考えていますが、上記理由に加えイマイチしぼりきれていないのもあり見送りの状況が続いていますし続くようになりそうです。

ますます混迷を深める一方で出口の見えないトンネルに迷い込んでしまったかのような展開にも毅然と立ち向かい、パフォーマンスを少しでも良化させていくべく不断の努力を継続していく心構えです。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります